

金属プレス研修塾 神戸製鋼所見学

日 時：令和5年10月6日（金）午後1時～4時

訪 問 先：株式会社神戸製鋼所 加古川製鉄所（兵庫県加古川市金沢町1）

内 容：挨拶、DVD鑑賞、原料ヤード、高炉、転炉、熱延（冷延は見学せず）、応接で質疑応答など

参 加 者：16名（塾生15名、朝田武志 安全・技術委員長）

金属プレス研修塾は、1年間（計6回）の研修を通じて塾生を募集し、金属プレス製品が出来るまでの過程（①製鉄所→②コイルセンター→③金型製作→④プレス製品製作）を学び、そして塾生同士の交流を図る目的で今年から開始しました。8月の開講式に続いて今回は鉄鋼材料の製造工程を学ぶために、神戸製鋼所の加古川製鉄所を訪問し研修しました。

加古川製鉄所は1970年（昭和45年）8月に高炉の操業を開始し、鉄鋼一貫体制の神戸製鋼所最大の製鉄所です。敷地面積 約 510 ヘクタール（甲子園球場 130 個分）、従業員数 約 2500 人、年間粗鋼生産量 約 600 万トン



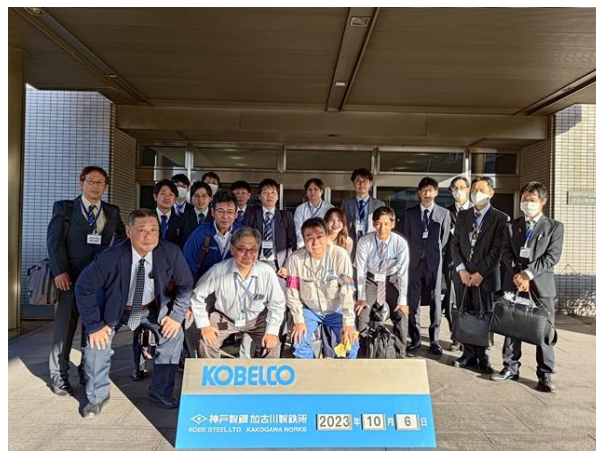
加古川製鉄所（写真は Wikipedia から）

JR 加古川駅に集合して送迎バスにて加古川製鉄所へ入りました。最初に双方の挨拶があり、紹介 DVD 鑑賞を致しました。次にいよいよ見学です。最初は原料ヤードを見学、原料となる鉄鉱石や石炭などが置かれベルトコンベアで高炉へ運ばれて行きます。高炉（高さ約 100m）では鉄鉱石や石炭を入れて反応させ銑鉄（溶けた鉄）を作ります。銑鉄を取り出す作業が迫力満点なのですが、今回はタイミングが合わず見られませんでした。銑鉄は混銑車という特殊車両で運搬され転炉へと運ばれます。転炉では大量の酸素を吹き込んで炭素成分を取り除いて強靱な鋼を作ります。転炉から出た溶けた鋼は連続鑄造設備を経て、厚板工場や線材工場へ運ばれて成形されていきます。厚板工場では長いローラー上を何度も往復しながら徐々に薄く延ばされてオーダーされた厚みに加工されます。熱く光る鋼がローラーを流れる迫力ある光景を見ることが出来ました。薄板工場は厚さ 3mm 以下の鉄板を作る工場です。薄板工場は一方通行で薄く引き伸ばされて最後は巻き取られます。なお冷間圧延の見学は今回含まれませんでした。

見学後は質疑応答の場が設けられました。塾生の皆様は日常業務で鉄鋼材料を扱っておられるので専門的な質疑応答がありました。見る機会が少ない製鉄所を見学出来て大変良かったと皆さんの感想でした。



応接室での質疑応答



集合写真

公式動画
加古川製鉄所
（紹介用）



公式動画
加古川製鉄所
（リクルート用）

